

基礎目標	風土に根ざした産業をつくる	第1四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538(H29)	554(R2)	535(H30)	—
政策1	①mashipo カード会員数(町内)	人	720	16,200	15,351	+296
	②誘致企業数	—	0	0	2	+2
	有効求人倍率	—	0.77	0.70	0.73	0.08
	③起業支援補助金利用件数(累計)	件	26	32	31	+2
政策2	④益子焼総販売額	億円	23(R1)	25(R4)	23(R1)	—
	①新規就農者数(累計)	人	28	38	37	+5
	②「食の学校」(仮)新商品数(累計)	—	未実施	2	1	+1
政策3	③市町村別農業産出額	億円	34	36.0(R3)	31.4(R2)	△0.8
	①観光客入込数	万人	291	225	186	+7
	観光客宿泊者数	人	47,550	35,000	26,424	+1,119
	②mashipo カード会員数(町外)	人	900	9,800	8,873	+1,764
	ツアー参加者数(累計)	人	未実施	600	8	+8

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①各種キャンペーンの継続的な実施に取り組み、mashipo カード町内会員数は、前年同期対比 296 人増加し、15,351 人となった。</p> <p>②関西の企業が工場物件を探しているとの情報をキャッチしたことから、先方のニーズを踏まえた物件紹介を行った。産業団地の整備については、県土地開発公社などと連携して進めていくことについて検討を開始した。令和4年5月時点の有効求人倍率は0.73となり、前年同期対比で0.08改善した。求職者向けにビジネスパソコン基礎講座を4回開催した。</p> <p>③中小企業振興資金は信用保証料が全額補助の効果もあり14件の申込となり、前年同期対比5件の増加となった。</p> <p>④日本遺産認定を記念して、笠間焼と益子焼を商品やサービスとして取扱う「かさましこ推奨店」に新たに1店舗が認定され、町内で61店舗となった。コロナ禍で延期となっていた国際交流事業を再開し、公募作家1名の滞在が6/9からスタートした。</p> <p>2 ①「農の学校」を5/14に開校し、11組20名(町内6名、町外14名)の受講生が入学した。農業の基礎を学ぶと共に、地域の農業団体との交流を活発に行った。</p> <p>②「食の学校」の開設に向けて準備を進め、7月から開催するセミナーの受講案内を町内飲食店・生産者・町民に対して行った。</p> <p>③販売経路の多様化として、町内産農産物のふるさと納税返礼品への登録促進や東京にあるアグリクラブへの直送販売などに取組んだ。</p> <p>3 ①コロナ禍で中止となっていた陶器市の2年振りの開催に向けて積極的に支援を行い、377千人の入込に繋がった。</p> <p>②Mashipo カード町外会員数は順調に推移しており、前年同期対比1,764人増加して、8,873人となった。また、蓄積された購買データの分析に着手した。</p>	<p>1 ①町内会員の利便性向上のためには加盟店舗数の増加が必須であることから、加盟店舗がメリットを享受できる制度を引続き検討していく。</p> <p>②関西企業の工場に関しては、引続き情報交換を行い誘致に繋げていく。産業団地の整備手法については、開発を着実に進めていくための最適な方法を決定し遅滞なく取組んでいく。求職者向けセミナーについては、効果的な周知を図りながら年間スケジュールに沿って引続き実施していく。以上のような施策を通して、有効求人倍率の向上に取り組んでいく。</p> <p>③中小企業振興資金を活用した資金繰り等の事業者支援について、金融機関と連携しながら引続き取組んでいく。</p> <p>④笠間市と共同で「かさましこ推奨店」をHPやチラシで引続きPRしていくと共に、焼き物の魅力についても広く伝えていく。国際交流事業では、滞在作家のワークショップを開催し、町内陶芸作家との交流を推進していく。</p> <p>2 ①「農の学校」では毎回受講生にアンケートを実施しており、今後の学校運営に役立てていくと共に、農業の担い手の確保と併せて移住定住との融合を図っていく。</p> <p>②「食の学校」の受講者がセミナーを通じて開発した商品を、最終的に販売に結び付けることが出来るよう支援をしていく。</p> <p>③町内農産物の販売経路の多様化として、コロナの収束状況を勘案しながら、貨客混載事業の本格的な運用について検討していく。</p> <p>3 ①7/15から開催を予定している「益子まるごとクーポン事業」を実施することで、「県民割り」に続き切れ目のない支援を行っていく。</p> <p>②引続き町外会員の獲得に取り組むと共に、蓄積された購買データの分析から得られるマーケティングデータの公表や加盟店ごとの個別還元に向けて作業を進めていく。</p>

基礎目標	風土に根ざした産業をつくる	第2四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538(H29)	554(R2)	523(R1)	△12
政策1	①mashipo カード会員数(町内)	人	720	16,200	15,427	+291
	②誘致企業数	—	0	0	2	+2
	有効求人倍率	—	0.77	0.70	0.75	+0.12
	③起業支援補助金利用件数(累計)	件	26	32	32	+3
政策2	④益子焼総販売額	億円	23(R1)	25(R4)	23(R1)	—
	①新規就農者数(累計)	人	28	38	40	+5
	②「食の学校」(仮)新商品数(累計)	—	未実施	2	5	+5
政策3	③市町村別農業産出額	億円	34	36.0(R3)	31.4(R2)	△0.8
	①観光客入込数	万人	291	225	186	+7
	観光客宿泊者数	人	47,550	35,000	26,424	+1,119
	②mashipo カード会員数(町外)	人	900	9,800	9,212	+1,624
	ツアー参加者数(累計)	人	未実施	600	8	+8

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①8月に夏休みキャンペーンを実施した。mashipo カード町内会員数は、前年同期対比 291 人増加し、15,427 人となった。</p> <p>②産業団地の整備について県土地開発公社などと情報交換を実施し、事業収支のより精緻な精査に着手した。(有)松廼家の工場新設工事は概ね計画通りに進捗しており、11月中旬に操業予定である。令和4年7月時点の有効求人倍率は0.75となり、前年同期対比で0.12改善した。求職者や起業者向けにスキルアップセミナーを7回開催した。</p> <p>③起業支援補助金審査会を開催し、1件の交付決定を行った(パンの製造販売)。中小企業振興資金は信用保証料全額補助の効果もあり13件の申込となり、前年同期対比10件の増加となった。</p> <p>④益子焼を含めた町の観光資源の一元的な発信を目的に、WEB陶器市のInstagramを観光公式Instagramとして発展的に継承し、37件の投稿を行った。コロナ禍で延期となっていたリチ工房派遣プログラムに2名の若手作家を派遣した。</p> <p>2 ①遊休農地の斡旋を通じて町外の農業生産法人の新規参入を促すと共に、新規就農希望者に対して、農業委員を介して農地取得の支援を行った。農の学校では、多角的な視点から農業への理解が深められるよう授業を月2回のペースで開催した。</p> <p>②食の学校では、セミナーの開催と個別相談会を実施した。新商品開発では、道の駅で「西洋野菜研究会」が生産したカーネルを使用したソフトクリームとドレッシングを開発し、販売開始となった。</p> <p>③地産地消の取組として、農家・給食センター・学校と連携して、田野小学校において食育事業を実施した。</p> <p>3 ①益子まるごとクーポン事業の宿泊券(旅行事業者分)は7月中に完売となった。また、「Near by Tokyo」サトで外国人向けの情報発信を行った。</p> <p>②Mashipo カード町外会員数は順調に推移しており、前年同期対比1,624人増加して、9,212人となった。</p>	<p>1 ①蓄積された購買データの分析から得られるマーケティングデータを加盟店ごとに還元していくことでリットを創出し、加盟店数の増加に繋げていく。</p> <p>②用地買収に着手する前に、産業団地整備に要する費用を現況下で改めて精査することで、投資効果を再度検証していく。求職者や起業者向けセミナーについては、効果的な周知を図りながら年間スケジュールに沿って引続き実施していく。以上のような施策を通して、有効求人倍率の向上に取り組んでいく。</p> <p>③起業者に対して、商工会と連携した伴走支援に取り組んでいく。中小企業振興資金を活用した資金繰り等の事業者支援について、金融機関と連携しながら引続き取り組んでいく。</p> <p>④WEB陶器市Instagramの約1万人のフォロワーをベースにして町の観光関連情報を一元的かつ継続的に発信していくことで、効果的なPRを行っていく。国際交流事業は人材育成に資する重要な事業であり、今後も計画的に実施していく。</p> <p>2 ①農の学校では、11組20名の受講生が卒業後に町内において農業に従事することができるよう、きめ細かな支援を行っていく。里西・星の宮土地改良事業では、合意形成の進んでいる星の宮地区から進めていく方向で検討していく。</p> <p>②食の学校での個別相談会には8名が参加するなど好評であり、参加した農家や飲食店に対して、管理栄養士や道の駅加工所と連携して新商品開発に向けた支援を継続していく。</p> <p>③学校での食育事業を通じて、児童・生徒の地元農産物に対する理解を深め、地産地消に繋げていく。</p> <p>3 ①観光庁の専門家派遣事業を活用し、インバウンド誘客事業について専門家の意見を踏まえながら、今後の事業展開を検討していく。</p> <p>②町内事業者の販売戦略に活用できるよう、蓄積された購買データの分析から得られるマーケティングデータを定期的に公表していく。</p>

基礎目標	風土に根ざした産業をつくる	第3四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538(H29)	554(R2)	523(R1)	△12
政策1	①mashipo カード会員数(町内)	人	720	16,200	15,470	+253
	②誘致企業数	—	0	0	2	+1
	有効求人倍率	—	0.77	0.70	0.82	+0.13
	③起業支援補助金利用件数(累計)	件	26	32	35	+4
政策2	④益子焼総販売額	億円	23(R1)	25(R4)	23(R1)	—
	①新規就農者数(累計)	人	28	38	40	+3
	②「食の学校」(仮)新商品数(累計)	—	未実施	2	6	+6
政策3	③市町村別農業産出額	億円	34	36.0(R3)	31.4(R2)	△0.8
	①観光客入込数	万人	291	225	126(上期)	+43
	観光客宿泊者数	人	47,550	35,000	3,409(上期)	+1,047
	②mashipo カード会員数(町外)	人	900	9,800	9,375	+1,322
	ツアー参加者数(累計)	人	未実施	600	33	+25

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①12月から100万ポイント山分け3倍キャンペーンを実施した。mashipo カード町内会員数は、前年同期対比253人増加し、15,470人となった。</p> <p>②産業団地の整備について、事業収支をより精緻に精査するため地質調査に着手すると共に、概略工程表の見直しを行った。また、工場建設ニーズに対応すべく不動産情報の収集に努め、適宜提供を行った。令和4年度11月時点の有効求人倍率は0.82となり、前年同期比で0.13改善した。求職者や起業者向けにスキルアップセミナーを8回開催した。</p> <p>③起業支援補助金審査会を2回開催し、3件(リフォーム業、美容室、アンティークショップ)の交付決定を行った。中小企業振興資金は信用保証料全額補助の効果もあり11件の申込となった。</p> <p>④益子焼を含めた町の観光資源の一元的な発信を目的とした観光公式Instagramに27件の投稿を行うとともに、「益子焼を使おうフォトコンテスト」を実施した。また、英国人招聘作家によるオープンスタジオ、ワークショップ、記念講演会を開催した。</p> <p>2 ①第1回目の農業戦略会議を開催し、農業者・商工関係者・学識経験者等が町の農業の現状と課題について多角的に議論した。また、農の学校を6回開催し、収穫した野菜なども販売した。</p> <p>②食の学校では、新商品開発の個別相談会を開催し、5名が参加した。また、「農×食ワークショップ」では、イタリアンシェフを講師に招き商品開発における付加価値の付け方などを学んだ。</p> <p>③学校給食センターと連携し、県補助金を活用して町内産のさつまいも・ケール・小麦を使用した給食を提供することができた。</p> <p>3 ①観光庁の専門家派遣事業で派遣された専門家と町内事業者を訪問し、インバウンド受入体制の課題についてヒアリングを行った。</p> <p>②Mashipo カード町外会員数は前年同期対比1,322人増加して9,375人となった。また、購買動向データの分析が完了した。ツアーについては、世間遺産サイクルゲインングを実施し25名が参加した。</p>	<p>1 ①年度末にポイントの失効が発生することから、ポイント残高の通知やキャンペーン等、ポイントの使用を促す事業を実施していく。</p> <p>②産業団地の整備は、地質調査の結果を踏まえた事業収支を精査し、事業の可否を検討していく。また、町内外の事業者からの工場等建設ニーズに的確に対応していくために、引き続き不動産情報の収集に努めていく。求職者向けセミナーについては、受講者の就業状況について追跡調査を行っていく。以上のような施策を通して、有効求人倍率の向上に取り組んでいく。</p> <p>③起業者に対して、商工会と連携した伴走支援に取り組んでいく。中小企業振興資金を活用した資金繰り等の事業者支援について、金融機関と連携しながら引き続き取り組んでいく。</p> <p>④「益子焼を使おうフォトコンテスト」の入選作品を決定し、PRポスターの作成及び配布を行う。また、国際交流事業では、次年度の公募作家の募集及び選定業務を進めるとともに、今年度の滞在作家の成果展の準備をしていく。</p> <p>2 ①農業戦略会議では、町の今後の農業の方向性を検討していく。また、小泉・本沼地区土地改良事業では、今年度に発注した圃場整備工事や排水路・水中ポンプ工事の年度内完了を目指していく。</p> <p>②個別相談会の参加者等に対して、道の駅加工所等と連携し新商品開発に向けた支援を継続していく。生産者と飲食店が連携を図ることで、町農産物のブランド化について具体的に検討していく。</p> <p>③学校給食の地産地消化を進め町内循環型経済を推進するとともに、首都圏への町内産農産物の販売の取組を強化していく。</p> <p>3 ①レンタルサイクルのインバウンド受入体制を強化するため、外国人観光客向けのWEBページやチラシを作成していく。</p> <p>②購買動向データの分析結果を公表すると共に、各加盟店には個別に分析データを還元し、町内循環型経済を推進していく。</p>

基礎目標	風土に根ざした産業をつくる	第4四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538(H29)	554(R2)	523(R1)	△12
政策1	①mashipo カード会員数(町内)	人	720	16,200	15,818	+535
	②誘致企業数	—	0	0	2	±0
	有効求人倍率	—	0.77	0.70	0.82	+0.10
	③起業支援補助金利用件数(累計)	件	26	32	35	+4
政策2	④益子焼総販売額	億円	23(R1)	25(R4)	20(R4)	△3
	①新規就農者数(累計)	人	28	38	40	+3
	②「食の学校」(仮)新商品数(累計)	—	未実施	2	8	+7
政策3	③市町村別農業産出額	億円	34	36.0(R3)	28.0(R3)	△3.4
	①観光客入込数	万人	291	225	248	+62
	観光客宿泊者数	人	47,550	35,000	39,143	+12,719
	②mashipo カード会員数(町外)	人	900	9,800	9,692	+1,320
	ツアー参加者数(累計)	人	未実施	600	45	+37

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①ポイントの利用促進を目的に、ポイント残高の通知に併せて福引大会を実施した。町内会員数は、前年同期対比 535 人増加し、15,818 人となった。</p> <p>②産業団地の整備について、事業収支をより精緻に精査するため地質調査を実施した。また、企業誘致審議会を開催し、(有)松廼家を奨励措置指定企業に決定した。令和 5 年 2 月時点の有効求人倍率は 0.82 となり、前年同期比で 0.10 改善した。</p> <p>3 町合同就職面接会を開催し、町民 4 名の就職に繋がった。</p> <p>③起業支援補助金利用件数の累計は 35 件となり、順調に推移している。また、令和 4 年度の相談者は 15 名となった。中小企業振興資金は 14 件の申込となり、年度で前年度を 15 件上回った。</p> <p>④益子焼を含めた町の観光資源の一元的な発信を目的とした観光公式Instagramに 29 件の投稿を行うとともに、「益子焼を使おうフォトコンテスト」入賞作品のチラシ・ポスターを作成し周知した。また、滞在作家 2 名の成果展を開催した。</p> <p>2 ①第 2 回目の農業戦略会議を開催し、担い手の確保・育成をテーマに課題等意見出しを行った。農の学校は一期生 11 組 20 名の全員が卒業し、卒業式では就農計画を発表した。</p> <p>②食の学校では、新商品開発の個別相談会を継続的に開催し、新商品数累計は 8 件となった。</p> <p>③令和 4 年度から試験的に開始した地元野菜を首都圏の飲食店等へ直送する取組について、課題等の整理を行った。</p> <p>3 ①観光庁の専門家派遣事業で派遣された専門家による町内事業者へのインバウンドに関するヒアリング結果がまとまった。また、まるごとクーポン事業の総括を行った。</p> <p>②「mashipo 購買動向データ分析資料」を初めて公表した。観光庁の補助事業「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」のモニターツアーに 20 人が参加した。</p>	<p>1 ①mashipo カードの電子マネー化の検討を進めると共に、観光商工課内にある事務局機能のアウトソーシングに取り組んでいく。</p> <p>②産業団地の整備は、地質調査の結果を踏まえて、立竹木調査や自然環境調査を実施していくと共に、用地測量業務を進めていく。また、町内外事業者の工場建設ニーズに対して実施した不動産マッチングのフォローを行っていく。引き続き求職者向けセミナーも開催し、有効求人倍率の向上に取り組んでいく。</p> <p>③起業に関する多くの相談が寄せられ、起業意欲の高さが窺える状況であり、引き続き制度の周知に努めると共に、独立開業へ繋がられるよう、商工会とも連携して支援を行っていく。</p> <p>④益子焼総販売額が長期に亘り低下傾向にあることから、令和 5 年度から新たに実施する益子焼振興に関する各種補助金の周知に努め、販売額のみならず作家育成や独立に向けた支援を強化していく。</p> <p>2 ①農の学校一期生の大半が、卒業後も二期生のサポーターとして引き続き授業に参加することから、就農に向けてステップアップが図られるよう支援していく。</p> <p>②食の学校で開発された商品の販売支援を行っていく。</p> <p>③益子野菜の品質の高さが評価された一方、輸送手段や輸送コスト等の課題が明確となったことから、課題クリアに向けた検討を行っていく。</p> <p>3 ①インバウンドに関するヒアリング結果を踏まえて、アターコトに向けた外国人の受入態勢について検討していく。まるごとクーポン事業は、今回の課題を踏まえて令和 5 年度の事業を実施していく。</p> <p>②「mashipo 購買動向データ分析資料」の内容を町内循環型経済の推進に活用していくと共に、分析の精度を高めていく。ランキングバケーションの参加団体が固定化しており、新規開拓に努めていく。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる		政策	しごとの創出と町内産業の活性化		
施策	町内循環型経済の推進		進捗状況	100%		
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」		関連するSDGs	7エネルギー		
KPI	mashipoカード会員数(町内)		本年度目標値	16,200	現状値	15,818 人
KPI			本年度目標値		現状値	
KPI			本年度目標値		現状値	
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果			
主な取組内容	4月		②③④協議会役員会の実施(4/15)			
		②加盟店の増				
	5月		②③④協議会役員会の実施(5/10) ②③④協議会総会の実施(5/26)			
		③電子マネー化の検討 ④mashipoの活用				
	6月		②未実施 ③未実施 ④半額ポイントバックキャンペーン(6/10~20)			
	7月		②③④協議会役員会の実施(7/1)			
	8月		②④夏休みプレゼントキャンペーン(8/11~8/31)			
		②加盟店の増 ③電子マネー化の検討 ④mashipoの活用				
	9月		②未実施 ③未実施 ④未実施			
	10月		②未実施 ③未実施 ④未実施			
	11月		②③④協議会役員会の実施(11/10、11/24)			
		②加盟店の増 ③電子マネー化の検討 ④mashipoの活用				
12月		②④100万ポイント山分けキャンペーン(12/17~1/15) ③協議会とましこラボとの打合せ(12/22)				
1月		②④100万ポイント山分けキャンペーン(12/17~1/15)。 協議会役員会の実施(1/26)				
	①mashipoへ移行					
2月		②④協議会役員会の実施(2/6)				
	②加盟店の増 ③電子マネー化の検討 ④mashipoの活用					
3月		②④福引大会の開催(3/26)				

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第 1 四 半 期</p>	<p>②役員会・総会を開催し、加盟店増について検討を行った。今後、商工会とも連携し、働きかけを行っていく。 ③2社に対し、システム導入に係る概算見積書の作成を依頼した。今後、返答があり次第、さらなる検討を行う。 ④令和2年度に行った町民2000ポイント配付事業で配付したポイントが令和4年度末で失効することから、ポイントを使用してもらうため半額ポイントバックキャンペーンを実施した。今後もキャンペーンなどを通してmashipoの活用を図っていく。</p>
<p style="text-align: center;">第 2 四 半 期</p>	<p>②④8月に夏休みプレゼントキャンペーンを実施し、mashipo会員数の増及び加盟店数の増を図った。次期四半期に協議会役員会を開催しキャンペーン実施結果について協議・検証し効果的なキャンペーンを実施するとともに、町民2000ポイント配布事業によるポイント失効のPRも実施していく。</p>
<p style="text-align: center;">第 3 四 半 期</p>	<p>②④12月に100万ポイント山分けキャンペーンを実施し、mashipo会員数の増及び加盟店数の増を図り、キャンペーン実施の際のポスターに町民2000ポイント配布事業によるポイント失効の記載を入れPRを実施した。 ③協議会とましろボとの打合せを行い、電子マネー化、事務局のあり方等の検討を行った。 次期は、年度末にポイント失効があるので、福引企画やポイント残高のお知らせ送付などを行いポイント失効前に加盟店で使用していただけるよう事業実施を行う。</p>
<p style="text-align: center;">総 括 ( 第 4 四 半 期 含 )</p>	<p>②④令和2年に実施した町民2,000ポイント付与事業で付与したポイントが令和5年3月末で失効してしまうことから、会員宛失効ポイント数のお知らせと合わせ福引大会を実施した。お知らせ後、mashipoカード再発行の件数が大幅に増加し、mashipoカードが再認識される契機となったとともに、ポイントを利用・付与した購買額が前年同月比(3月)で1.26倍になった。 次年度は、電子マネー化の検討をシステム全体の見直しを含め本格化させるとともに、事務局体制の見直しを進めて行く。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について                      Aこのまま継続 ○                      B改善・見直し                      C廃止・終了</p> <p>①意見・提言</p>	<p>電子マネー化の検討をシステム全体の見直しを含め本格化させるとともに、事務局体制の見直しを進めて行く。</p>



第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	しごとの創出と町内産業の活性化			
施策	令和の時代・益子の特性に合った企業誘致の推進	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	8働きがい、経済成長	9産業・技術		
KPI	誘致企業数	本年度目標値	0	現状値	2	—
KPI	有効求人倍率	本年度目標値	0.7	現状値	0.82	—
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な取組内容	4月	①産業団地の整備の推進及び既存用地を活用した企業誘致	①産業団地開発事業構想の説明 ②当地移転企業の工場建設進捗等確認 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④企業誘致による雇用の創出:①・② ⑤セミナーの日程調整やチラシ作成			
	5月	②企業誘致制度の周知による企業誘致の推進 ③研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す	①事業構想に基づく開発スケジュール等検証 ②当地立地の企業担当者との面談・工場用地ヒアリング ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナーの日程調整やチラシ作成			
	6月	④町民の雇用の場を創出する ⑤求職者等向けのセミナー開催	①産業団地開発に関し、県土地開発公社訪問・事業協力相談 ②町外企業への工場物件紹介・案内による誘致活動 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナー開催(4回)			
	7月	①産業団地の整備の推進及び既存用地を活用した企業誘致	①産業団地開発用地買収に係る業務委託見積り依頼 ②町内の工場用地不動産情報の収集を実施 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナー開催(2回)			
	8月	②企業誘致制度の周知による企業誘致の推進 ③研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す	①産業団地開発に係る経費等事業収支に関する相談を実施 ②町内の工場用地不動産情報の収集を実施 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナー開催(2回)			
	9月	④町民の雇用の場を創出する ⑤求職者等向けのセミナー開催	①産業団地開発に係る経費に関し再精査の指摘を受け、経費再見積りを依頼、より精緻な収支計画作成に着手。 ②県宛、企業誘致に係る不動産情報の提供を実施。 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナー開催(3回)			
	10月	①産業団地の整備の推進及び既存用地を活用した企業誘致	①産業団地開発の事業計画策定/完成度:35% ②町内の工場用地不動産情報の収集を実施 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナー開催(4回)			
	11月	②企業誘致制度の周知による企業誘致の推進 ③研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す	①産業団地開発の事業計画策定/完成度:65%、概略工程表を作成 ②町内の工場用地不動産情報の収集を実施 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナー開催(2回)			
	12月	④町民の雇用の場を創出する ⑤求職者等向けのセミナー開催	①産業団地開発の事業計画策定/完成度:80% ②町内企業の工場移転相談を受け、不動産情報の提供を実施。 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナー開催(2回)			
	1月	①産業団地の整備の推進及び既存用地を活用した企業誘致	①産業団地開発の事業計画策定/完成度:90% 産業団地開発予定地の地質調査の開始(1~3月) ②町内の工場用地不動産情報の収集を実施 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR			
	2月	②企業誘致制度の周知による企業誘致の推進 ③研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す	①産業団地開発の事業計画策定/完成度:90%、地質調査結果待ち ②町内企業を訪問、不動産情報の提供、企業ニーズを調査。 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤3町合同就職面接会(2/3)			
	3月	④町民の雇用の場を創出する ⑤求職者等向けのセミナー開催	①産業団地開発の事業計画策定/完成度:95%4月中完成予定。 ②企業を訪問、企業ニーズを調査。企業への不動産情報の提供を実施 誘致企業:南松廻家の企業等誘致審議会を開催。 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR			



シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;"><b>③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</b></p>
<p style="text-align: center;"><b>第1 四半期</b></p>	<p>①産業団地の整備については、新町長宛事業構想の説明を実施、今後の開発スケジュール等を検証した。また、事業を進めるに際し、県土地開発公社へ訪問、事業の説明、開発における個別事業に関しての協力を相談した。</p> <p>②4月：当地移転予定企業の工場建設進捗状況について確認、当初予定通り、工場関係は完了となる見込み。5月：町内企業から産業団地についての照会があり、将来的に工場建設のニーズがあることを確認。物件紹介等、定期的な面談等により町内での工場建設に繋がります。関西本社の企業が工場物件を探している情報をキャッチ。同社へ不動産会社経由で物件を紹介、当地への誘致を図った。引き続き、情報収集を行い、企業誘致に繋がるよう努める。</p> <p>③金融機関、ゼネコンを訪問、研究開発系企業進出のニーズ・企業誘致の情報収集を実施した。引き続き情報収集に努め、研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す。</p> <p>④企業誘致活動の他、雇用支援奨励金のPRによる雇用の創出に努めた。今後も、町民の雇用の場の創出に繋がるよう、企業誘致、雇用支援奨励金PRを地道に行っていく。</p> <p>⑤ビジネスパソコン基礎講座を開催した。また次月からのセミナー実施に向け、募集を行い開催に向け準備を行った。今後、求職者の就職に繋がるよう、セミナー開催を行う。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第2 四半期</b></p>	<p>①産業団地の整備については、用地買収に関する業務委託見積の依頼及び事業収支についての相談する等、産業団地開発を進めてきたが、事業経費見込額について再度精査の指摘を受け、想定経費、不足していた経費の見積もりを依頼、より精緻な事業収支作成に着手した。</p> <p>②7～9月：当地移転予定企業の工場建設進捗状況について確認、10月中旬工場完成となる見込み。町内外企業からの工場建設ニーズに対応すべく、町内工場用地に適した不動産に情報収集を実施した。定期的な情報収集を続け、不動産情報のストック積上げを図り、企業誘致に繋がるよう努める。また、県からの依頼を受け、県内進出を計画している企業向けの不動産情報の提供を実施。</p> <p>③金融機関、ゼネコンを訪問、研究開発系企業進出のニーズ・企業誘致の情報収集を実施した。引き続き情報収集に努め、研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す。</p> <p>④企業誘致活動の他、雇用支援奨励金のPRによる雇用の創出に努めた。今後も、町民の雇用の場の創出に繋がるよう、企業誘致、雇用支援奨励金PRを地道に行っていく。</p> <p>⑤求職者・起業者のためのスキルアップセミナーを計7回開催した。また次月からのセミナー実施に向け、募集を行い開催に向け準備を行った。今後、求職者の就職に繋がるよう、セミナー開催を行う。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第3 四半期</b></p>	<p>①産業団地の整備については、想定経費として不足していた経費の見積もりを徴求、より精緻な事業収支計画の作成に着手し、概略工程表の作成等、事業収支計画作成の完成度は80%まで実施、年度内の完成を目指す。</p> <p>②10～12月：当地移転予定企業の工場建設進捗状況について確認、10月に新工場が完成し、11月に内覧会を実施しました。また工場完成に伴い、従業員募集に関し、10月にハローワーク真岡を紹介しました。新工場の稼働は、一部設備工事、引越しの関係から12月24日となりました。町内外企業からの工場建設ニーズに対応すべく、町内工場用地に適した不動産の情報収集を実施しました。定期的な情報収集を続け、不動産情報のストック積上げを図り、企業誘致に繋がるよう努めます。また、12月は、町内企業の工場移転の相談を受け、不動産情報の提供を実施しました。</p> <p>③金融機関を訪問、研究開発系企業進出のニーズ・企業誘致の情報収集を実施した。引き続き情報収集に努め、研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す。</p> <p>④企業誘致活動の他、雇用支援奨励金のPRによる雇用の創出に努めた。今後も、町民の雇用の場創出に繋がるよう、企業誘致、雇用支援奨励金PRを行っていく。</p> <p>⑤求職者・起業者のためのスキルアップセミナーを計8回開催した。2月3日に3町(益子町・市貝町・茂木町)合同就職面接会を予定しているため、参加事業所の募集を実施、ハローワーク真岡等と連携し円滑な実施準備を行っていく。</p>
<p style="text-align: center;"><b>総括 (第4 四半期 含)</b></p>	<p>①産業団地の整備については、1～3月の地質調査結果を踏まえ、事業計画年度内の完成を目指していたが、調査完了は3/27、完成度は95%までとなったが、令和5年度4月中には完成する予定。当該事業計画において、地質調査の結果、事業収支、赤字回収期間等を多角的に検証し、本事取組の是非を決める。</p> <p>②企業誘致の推進については、1～3月、企業訪問や企業への不動産譲歩の提供、町内工場用地に適した不動産情報の収集を実施した。町内外の工場移転・工場新設のニーズのある企業には定期的に訪問する等、連絡密にし、企業ニーズの実現に繋げていく。</p> <p>誘致した企業：(有)松廻家については、益子町企業等誘致審議会を開催し、同社を奨励措置指定企業とした。誘致企業に対しては、定期的に連絡を取り、企業ニーズを収集し、町民の雇用、町内経済の活性化に繋がるよう対応する。</p> <p>③金融機関を訪問、研究開発系企業進出のニーズ・企業誘致の情報収集を実施した。引き続き情報収集に努め、研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す。</p> <p>④企業誘致活動の他、雇用支援奨励金のPRによる雇用の創出に努めた。今後も、町民の雇用の場創出に繋がるよう、企業誘致、雇用支援奨励金PRを行っていく。</p> <p>⑤3町(益子町・茂木町・市貝町)合同就職面接会を開催し、事業所23社、求職者27名の参加があり、町民4名の就職につながった。次年度もセミナー参加者のアンケート等も参考に、効果的なセミナーを開催していく。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について                      Aこのまま継続 ○(※スピーディに)                      B改善・見直し ○                      C廃止・終了</p> <p>①意見・提言                      A ぜひ積極的に企業誘致を進めてください。                      有効求人倍率のKPIが0.7は低いと思う。                      B 1.0を目標にしてはどうでしょう。かっこよく、ワクワクする目標                      設定をしてください。</p>	<p>・次年度についても、策定した年間計画に則し、業務を遂行し企業誘致等を進めていきます。計画については、適宜状況等に応じて、改善・見直しを実施しながら、計画の履行・実践を進め、早期に目標が達成できるよう努めます。</p> <p>・特に、企業誘致については、雇用への寄与は大きく、ゼネコン・金融機関等からの情報収集を定期的を実施し企業誘致につながるよう、積極的に推進します。</p> <p>KPIの有効求人倍率は、受理地別を採用しており、平成28年度以降の月別最高値が平成30年1月及び令和元年12月の0.98であり(全国では各々1.59及び1.57)、年度別では令和4年度の0.83が最高値(最低は平成28年度の0.56)であるので、令和7年度のKPIである1.0達成に向け、各種施策を実施していく。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	しごとの創出と町内産業の活性化			
施策	商店街活性化と起業支援	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	—			
KPI	起業支援補助金利用件数(累計)	本年度目標値	32	現状値	35	件
KPI		本年度目標値		現状値		
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な取組内容	4月	①起業支援補助金の周知	①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ1件、融資申込5件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●計画書作成準備会の開催(4/15、4/25)			
	5月	②商工会と連携し、事業者への指導・支援体制の強化、融資制度による支援 ③求人情報、空き店舗情報等の情報収集及び発信 ④チャレンジショップの支援	①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ2件、融資申込6件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●計画書作成準備会の開催(5/16)			
	6月	●街なみ環境整備事業の実施	①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ2件、融資申込7件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●未実施			
	7月	①起業支援補助金の周知	①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ1件、融資申込5件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●計画書作成準備会の開催(7/20)			
	8月	②商工会と連携し、事業者への指導、融資制度による支援 ③求人情報、空き店舗情報等の情報収集及び発信 ④チャレンジショップの支援	①審査会の実施(8/26)、1件交付決定、町HP及び窓口案内 ②融資申込2件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●計画書作成準備会の開催(8/1,8/24)			
	9月	●街なみ環境整備事業の実施	①町HP及び窓口案内 ②融資申込6件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●トークセッション開催準備			
	10月	①起業支援補助金の周知	①審査会の実施(10/12)1件交付決定、町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ2件、融資申込2件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●計画書作成準備会の開催(10/7) ●益子本通りトークセッションVol.1開催(10/17)			
	11月	②商工会と連携し、事業者への指導、融資制度による支援 ③求人情報、空き店舗情報等の情報収集及び発信 ④チャレンジショップの支援	①審査会の実施(11/29)、2件交付決定、町HP及び窓口案内 ②融資申込4件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●計画書作成準備会の開催(11/1,11/18)			
	12月	●街なみ環境整備事業の実施	①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ1件、融資申込5件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置			
	1月	①起業支援補助金の周知	①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ2件、融資申込5件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●益子本通りトークセッションVol.2開催(1/23)			
	2月	②商工会と連携し、事業者への指導、融資制度による支援 ③求人情報、空き店舗情報等の情報収集及び発信	①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ1件、融資申込6件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●計画書作成準備会の開催(2/28)			
	3月	④チャレンジショップの支援	①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ3件、融資申込3件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ●計画書作成準備会の開催(3/15、3/30)			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①引き続き制度の周知・案内を実施し、都度、審査会の実施・交付決定など行っていく。</p> <p>②町緊急経済対策事業者等支援金(第2回)の制度周知・交付や国・県の支援情報の提供、融資制度等による支援を実施した。引き続き、コロナ関連を含め情報収集・支援を実施していく。</p> <p>③引き続き情報収集及び発信を行う。</p> <p>④チャレンジショップが令和4年3月26日(土)にオープンしたので、町商工会と連携し継続的に経営支援を実施していく。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①審査会を開催し、1件交付決定、1件保留案件とした。引き続き制度の周知・案内を実施し、都度、審査会の実施・交付決定など行っていく。</p> <p>②町緊急経済対策事業者等支援金(第3回)の制度周知・交付や国・県の支援情報の提供、融資制度等による支援を実施した。引き続き、コロナ関連を含め情報収集・支援を実施していく。</p> <p>③引き続き情報収集及び発信を行う。</p> <p>④チャレンジショップの施設・経費の管理を行うとともに、必要な支援策を講じていく。</p> <p>●益子本通りに関して、課題の洗い出しや対応策について検討していく。10月にトークセッションを開催し、意見を集め、計画に反映していく。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①審査会を2回実施し、第2四半期に保留としていた分を含め計3件を交付決定した。引き続き制度の周知・案内を実施していく。</p> <p>②町緊急経済事業者等支援金を11月末まで申請期間を延長し実施した。引き続き情報収集・支援を実施していく。</p> <p>③引き続き情報収集及び発信を行う。</p> <p>④チャレンジショップ利用者の経営は概ね順調であるので、今後の確定申告などに必要な支援を商工会等と実施していく。</p> <p>●益子本通りトークセッションvol.1を実施し、住民や起業希望者等の参加があった。そこでの意見等を今後策定する計画に反映していく。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①起業支援補助金の交付者は累計35名となり、順調に推移している。相談者も年間15名と多数いらっしやり、起業意欲は高いので、独立開業へ繋げられるよう制度周知を行っていく。</p> <p>②信用保証料補助を全額補助とし、中小企業の資金繰り支援を実施するとともに、緊急経済対策事業者等支援金(第2回・第3回)を行った。今後も国の交付金等を活用しながら中小企業支援を行っていく。</p> <p>③引き続き情報収集及び発信を行う。</p> <p>④チャレンジショップに経営は、順調に推移している。独立に向けた支援を行いつつ、次期使用者の募集に向けた準備も実施していく。</p> <p>●トークセッションVol.2を実施し、益子本通りの課題・要望等の洗い出しを行った。次年度は都市再生整備計画へ掲載する事業の具体化を進めて行く。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について                      Aこのまま継続 ○(※条件あり)                      B改善・見直し                      C廃止・終了</p> <p>①意見・提言                      補助金額に見合う、町への経済効果を見極めてください。(5年ごとに検証する等)                      例えば、町内在住者で100万円の補助金を出し、事業を開始したが、利益が出ず4年目に廃業してしまった等の場合、補助金に見合う町への経済効果はないと思います。</p>	<p>補助対象者については、商工会等と連携し経営計画の立案や経営スキルの向上を図るなど事業継続へのサポートを行っていくが、制度・運営上問題点がないか見直しを図っていきたい。</p>



第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	しごとの創出と町内産業の活性化			
施策	世界に誇る手仕事の町づくり	進捗状況	100%			
関連する優先目標	—	関連するSDGs	—			
KPI	益子焼総販売額	本年度目標値	25 (R4)	現状値	20 (R4)	億円
KPI		本年度目標値		現状値		
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な 取組 内容	4月			①かさましこ推奨店1店新規加入。HP等でのPR。 ③④打ち合わせ実施 ⑧未実施		
	5月	①かさましこのつながりを活用したPR ③益子焼や工芸品のあるライフスタイルの発信 ④益子焼や工芸品の利用促進 ⑥益子国際工芸交流館を拠点とし、国内外から手仕事を学びに来る仕組みの構築 ⑧益子焼の授業など特色ある教育活動の充実への協力		①HP等でのPR。 ③④打ち合わせ実施 ⑧未実施		
	6月			①HP等でのPR。 ③④公式観光Instagram事業のましこラボへの業務委託事務。 ⑥公募作家ターニャ・ヘルマン氏滞在 記念講演会6/11の実施(参加者12人)。 ⑧6/7ましこいきいき講座実施。		
	7月			②③④観光公式Instagramで9件投稿 ⑥公募作家氏太田剛速氏滞在。オープスタジオ7/29(参加者)6名、リーチ工房派遣プログラムについて岩下氏、榎田氏リーチ工房へ出発滞在期間7/20~9/16		
	8月	①かさましこのつながりを活用したPR ②販路開拓の支援 ③益子焼や工芸品のあるライフスタイルの発信 ④益子焼や工芸品の利用促進 ⑥益子国際工芸交流館を拠点とし、国内外から手仕事を学びに来る仕組みの構築		①かさましこ推奨店事業の令和4年度協賛金の徴収 ②③④観光公式Instagram16件投稿 ⑥公募作家、太田剛速氏滞在。ワークショップ8/11実施(参加者54名)、オープスタジオ8/20実施(参加者9名)		
	9月			②③④観光公式Instagram12件投稿 ⑥招聘作家、ルロフ・ウィス氏滞在準備。リーチ工房派遣プログラムについて岩下氏、榎田氏が帰国9/17		
	10月			②③④観光公式Instagram7件投稿 ⑥招聘作家ルロフ・ウィス氏滞在10/2~12/1。オープスタジオ 10/13,14,15の実施(参加者65人)。		
	11月	①かさましこのつながりを活用したPR ②販路開拓の支援 ③益子焼や工芸品のあるライフスタイルの発信 ④益子焼や工芸品の利用促進 ⑥益子国際工芸交流館を拠点とし、国内外から手仕事を学びに来る仕組みの構築 ⑦窯業技術支援センターでの人材育成支援		②③④観光公式Instagramで8件投稿 ③「益子焼を使おうフォトコンテスト2022」を11/1~12/31の期間で開催。 ⑥招聘作家ルロフ・ウィス氏滞在10/2~12/1。ワークショップ11/12の実施(参加者51人)。記念講演会の実施11/27(参加者33名)		
	12月			②③④観光公式Instagramで12件投稿 ⑥令和5年度の公募作家の募集12/23~1/31を始めた。		
	1月			②③④観光公式Instagramで12件投稿		
	2月	①かさましこのつながりを活用したPR ②販路開拓の支援 ③益子焼や工芸品のあるライフスタイルの発信 ④益子焼や工芸品の利用促進 ⑥益子国際工芸交流館を拠点とし、国内外から手仕事を学びに来る仕組みの構築		①かさましこ推奨店追加取材 ②③④観光公式Instagramで8件投稿		
	3月			②③④観光公式Instagramで9件投稿 ③フォトコンテスト入賞作品を使用したチラシ3,000枚、ポスター50枚作成 ⑥滞在作家(ターニャ・ヘルマン、太田剛速)の成果展示を開催した(3/25~6/18)		

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①かさましこ推奨店にカフェ1件が新規加入した。次期四半期は、既存店舗のR4年度加入確認・協賛金徴収を進めるとともに笠間市とともにHPの充実等PRを行う。 ③④公式観光Instagram事業の準備・打ち合わせを行い、DMOと契約した。7月から投稿を始める予定である。 ⑥2022年公募作家ターニャ・ヘルマン氏(6/9～7/21滞在)について、記念講演会、公開作業等の交流プログラムの開催をとおして、町内陶芸家との交流の推進が図れた。今後も、公開ワークショップ(7/2予定)の開催も行いながら、次の公募作家太田剛速氏の準備を進めていく。 ⑧益子小6年生の総合的な学習の時間で「ましこいきいき講座行政編 39番 益子町の産業」の依頼があり、益子焼を含む町産業の特徴などの講座を行った。今後も要望に応じ実施していく。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①かさましこ推奨店の協賛金徴収と合わせてアンケートを実施し結果について笠間市と共有した。 ②③④観光公式Instagramで計37件観光情報を掲載した。 ⑥2022年公募作家太田剛速氏(7/23～8/26滞在)について、記念講演会、ワークショップ、公開作業等の交流プログラムの開催をとおして、町内陶芸家との交流の推進が図れた。引き続き、次の招聘作家ルロフ・ウィス氏の準備を進めていく。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>②③④観光公式Instagramで計27件の観光情報を掲載した。引き続き観光情報の掲載を実施していく。 ③「益子焼をしようフォトコンテスト2022」を実施した。次期は入選作品を基にPRポスター作成・配付を行う。 ⑥2022年招聘作家ルロフ・ウィス氏(10/2～12/1滞在)について、記念講演会、ワークショップ、公開作業等の交流プログラムの開催をとおして、町内陶芸家との交流の推進が図れた。今後は、次年度の公募作家の募集及び選定業務を進めながら、今年度の滞在作家の成果展示の準備をしていく。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①かさましこ推奨店の中から希望者を募り、追加取材を実施し、かさましこホームページの充実を図った。今後もホームページやイベント等で推奨店情報を発信していく。 ②③④公式Instagram事業を立ち上げ、全国に向け益子町のその時々々の観光情報を発信した。今後もタイムリーな観光情報の発信を行っていく。 ⑥令和4年度は、3名の作家滞在事業(日本在住者2名、イギリス人1名)を実施した他、リーチ工房へ益子の若手陶芸家2名を派遣した。今後は、次年度に向けて事業内容の検討及び準備を進めていく。</p>



シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について Aそのまま継続 B改善・見直し ○ C廃止・終了</p> <p>①意見・提言 ビックサイトなどで行われるテーブルウェアの見本市への出展の経済的負担、時間的負担のハードルが高いのであれば、春と秋の陶器市にBtoB向けの窓口や展示スペース等を確保し、商談仲介をするのはどうでしょうか。同時に飲食店や小売店、建設関係等、陶器商材を扱う業者へのプロモーションもする必要があると思います。</p>	<p>令和4年度のBtoB向けの展示会参加実績としましては、益子町商工会が東京ビックサイトで開催されたJAPNTEX2022に参加し、益子焼のインテリア・建材向け利用をPRを行っている。</p> <p>また、益子焼関係団体振興協議会において令和5年度に関西地区のデパートで1週間程度の催事を予定しており、関西地区における知名度アップを図る予定である。</p> <p>観光公式インスタグラムのフォロワー数が順調に伸びており、益子焼購買向上にも繋がる流れとなっている。</p> <p>陶器市期間中の商談機会の創設等を含め、関係団体と協力し益子焼販売額の向上に向け施策を行ってきたい。</p> <p>⑥令和4年度は、3名の作家滞在事業(日本在住者2名、イギリス人1名)を実施した他、リーチ工房へ益子の若手陶芸家2名を派遣した。次年度は、より町内の陶芸家と交流および事業への参加へと繋がるようなプログラム検討していく。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	農政課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	成長産業としての農業の育成と「食」のまちづくり			
施策	地域の特性に合った農産物の生産体制の整備	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	2 飢餓			
KPI	新規就農者数(平成26年度からの累計)	本年度目標値	38	現状値	40	人
KPI		本年度目標値		現状値		
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な 取組 内容	4月		③新規就農相談会 4/14 ④ましこ農の学校創設準備 ⑥小泉本沼土地改良事業地区委員会 4/11 里西土地改良事業会議 4/11			
	5月	③新規就農促進 ④農の学校の運営 ⑥土地改良事業の推進	④ましこ農の学校開校式 5/14 定植、5/28 定植・管理機の操作・作付計画 ⑥小泉本沼土地改良事業地区委員会 5/27			
	6月		④ましこ農の学校 6/11 管理機刈払機の操作・栽培管理、6/25 刈払機の操作・栽培管理里西土地改良事業会議 6/10 ⑥小泉本沼土地改良事業地区委員会 6/20			
	7月		③新規就農希望者に果樹団地紹介(現地視察) 7/11 ④ましこ農の学校 7/9 しゃがいも収穫・土寄せ・定植・播種・SNS活用法、7/23 枝豆の農薬散布・器を使ったコーディネート ⑤集落営農組織による土地利用型農業連携検討会 7/21			
	8月	②遊休農地を利用した農産物生産 ③新規就農促進 ④農の学校の運営 ⑤農業関係団体と連携した担い手づくり ⑥土地改良事業の推進	③新規就農相談 8/12 ④ましこ農の学校 8/7、8/27 ⑥里西星の宮地区土地改良事業推進協議会3役会議 8/8、小泉本沼地区換地委員会 8/23、里西星の宮地区土地改良事業推進協議会 8/30			
	9月		②-1遊休農地を利活用した薬用作物の生産振興 ②-2遊休農地を利活用したさつまいもの生産振興 ③新規就農相談 9/15、9/27 ④ましこ農の学校 9/10、9/24 ⑥里西星の宮地区土地改良事業推進協議会 9/26、小泉本沼地区委員会 9/30			
	10月		③新規就農相談 10/18、10/24、10/25 ④ましこ農の学校 10/2、10/15 農地利用状況調査の実施 ⑥里西星の宮地区土地改良事業推進協議会 10/18			
	11月	①農業戦略を作成 ③新規就農促進 ④農の学校の運営 ⑤農業関係団体と連携した担い手づくり ⑥土地改良事業の推進	③新規就農相談会 11/13、酪農家の第三者継承協議 11/1 ④ましこ農の学校 11/5、11/26、11/27 ⑤集落営農組織による土地利用型農業連携検討会 11/8 ⑥小泉本沼換地委員会 11/1、里西星の宮地区土地改良事業推進協議会 11/21			
	12月		①農業戦略会議の開催 12/23 ④ましこ農の学校 12/4 ⑥里西星の宮地区土地改良事業推進協議会 12/20			
	1月		③新規就農相談 1/27 ④ましこ農の学校 1/10 1/21			
	2月	①農業戦略を作成 ③新規就農促進 ④農の学校の運営 ⑤農業関係団体と連携した担い手づくり ⑥土地改良事業の推進	③新規就農相談会 2/1.2/16、酪農家の第三者継承協議 11/1 ④ましこ農の学校 2/5 2/18 ⑥集落営農 小泉本営農会議 2/24			
	3月		①農業戦略会議の開催 3/17 ③新規就農相談会 3/1.3/28 ④ましこ農の学校卒業式 3/4 ⑥里西星の宮地区土地改良事業推進協議会 3/15 小泉本沼地区地区委員会 3/24			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>④5月14日に「ましこ農の学校」の入学式が行われ、受講生11組20名が入学した。受講生のうち4名は将来道の駅ましこで販売を希望、1名は小麦などの栽培を希望しているため、小規模であるが益子町の農業の担い手の確保育成の場として期待できる。5月・6月は授業を通して農業の基礎基本を学ぶとともに、地域の農業者の団体である「ましこ西洋野菜研究会」との試食会をとおして交流を活発に行うことができた。今後は、毎回授業後に行っている受講生のアンケートや意見を参考に検証をしっかりと行い、よりよい学校運営を行っていききたい。</p> <p>⑥里西土地改良事業については、大きく課題は3つある。1点目は「営農構想」。10年後の圃場整備地に誰が何を生産するか決めなければならない。2点目は「芳賀台地水利事業」。パイプラインにより農業用水の活用が求められるが、現状作付けの大部分は蕎麦・麦のため芳賀台地水利利用の見込みは少なく、畑地の経常賦課金を下げるか、若しくはウォータースタンドによる推進の2択となる。この課題については芳賀台地土地改良区理事会にて、検討しているところである。3点目は「同意取得」。条件付き参加者が多い為、土地改良区への経常賦課金や特別賦課金を説明のうえ、仮同意を得る予定。里西地区の同意率は約90%であるが、反対者の土地が多数存在していることから、反対者への働きかけがカギとなる。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>②-1遊休農地を斡旋し、六次産業化地産地消法に基づく総合事業計画の認定を受けた生産者が薬用作物(当帰)の生産規模拡大を図ることができた。</p> <p>②-2遊休農地を斡旋し、町外の農業生産法人の新規参入を図るとともに、遊休農地の解消に向けた調整を行った。</p> <p>③新規就農希望者に対して、農業委員を介し農地の出し手を受け手をつなぎ農地取得の支援を行った。</p> <p>④ましこ農の学校を月2回開催し、実習やワークショップにより多角的な視点から農業への理解を深められるような授業が実施できた。</p> <p>⑤田野地区集落営農組織及び生田目集落営農組合計5組織による現状、課題や展望、解決策等について協議を実施。どこの組織も後継者不足であり、担い手がないため個別に貸借が行われ、団地化が崩れてきている。組織の壁を越えて連携が必要とのことである。</p> <p>⑥小泉・本沼土地改良事業 今年度はつくば益子バイパス予定地東側を工事予定。事業費450,000千円 10.2ha 農業用水確保のため深井戸を掘削。 里西・星の宮地区土地改良事業推進業務 里西地区のエリア中央部に反対者の圃場が多数存在することから、まずは星の宮地区を優先し事業を進めることとなった。今後の課題は芳賀台地農業用水の導入の件。地元は芳賀台地農業用水を望んでおらず、深井戸を望んでいる。芳賀農業振興事務所にはその話を伝えており、芳賀台地の導入をしないで、本事業が進められるか現在、県と調整中である。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①第1回益子町農業戦略会議を開催し、農業者、商工関係者、学識経験者など幅広い分野の人材への委嘱状の交付、及び益子町の現状と課題について議論を行った。今後これらを踏まえ農業の方向性を検討していく。</p> <p>④ましこ農の学校で収穫した野菜を町民まつりや道の駅で販売を行い、同じものを販売するにしてもお客様の年齢や目的により、体裁やレイアウト、価格等を変え、ニーズに合わせた雰囲気作りが重要であることが反省点としてあげられた。</p> <p>⑤前回会議に引き続き、課題や展望、解決策等について協議。肥料高騰のため連携して大口購入により費用を抑える等の工夫が必要との意見があり、すぐに取り組みることとして進めていく方針。</p> <p>⑥小泉・本沼土地改良事業 ・今年度工事の入札が執行され、工事業者が決定した。圃場整備工事、排水路・水中ポンプ工事</p> <p>⑥里西・星の宮地区土地改良事業推進業務 ・益子町土地改良区への編入について、スケジュールを作成。令和6年度から当地区が8つ目の地区委員会として、改良区に編入される予定。第1ステップとして、令和5年2月の改良区理事会に諮る議案を1月中旬に作成する。(定款・規約の一部改正)</p> <p>・未相続の土地がエリア内に存在するため、事業採択(令和6年度予定)までに解決への働きかけを行う。</p> <p>・営農活性化計画について、エリア内の担い手が決定した。今後は担い手同士の話し合いの場を創り、耕作地の調整などを進める。</p> <p>・西谷地区の基盤土を確保するため、芳賀農振や真岡土木と調整し、河川浚渫残土の受け入れ体制を整える予定。まずは、地元推進委員に河川現地において、土質の確認や受け入れ承認を得る必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①第2回益子町農業戦略会議を開催し、担い手の確保育成について意見を出し合った。</p> <p>③新規就農相談会では、露地野菜、果樹の就農希望者が振興事務所、町と相談を行った。露地野菜については、施設野菜と異なり手軽に始められる一方で、浅薄な計画となり、振興事務所に認められないケースがあった。益子町で就農を希望する貴重な人材を育成するために、町としての支援方法を検討する必要がある。</p> <p>④ましこ農の学校は、薄羽養鶏場の薄羽氏を講師に迎えた「オンライン販売セミナー」を実施した。農の学校の受講生だけでなく、地域おこしや若手農家も多数参加し、活発な意見交換が行われ有意義な授業内容となった。今後もましこ農の学校で地域の人材と交流を図っていききたい。また卒業式では受講生それぞれが、個性やスキルを活かした就農計画を作成し発表した。卒業後は、ほとんどの受講生が2期生のサポートを行いながら農の学校に参加するが、就農に向けてのステップアップを図れるよう支援していききたい。次年度は、1期生のフィードバックをもとに授業内容を見直し、より一層の充実を図りたい。</p> <p>⑥里西星の宮地区土地改良事業の推進については、事業採択申請(R5年7月)ごろまでに問題の土地(未相続・抵当権・仮登記)について、解決しなければならぬ。とりわけ相続登記については遺産分割協議に長時間を要すことから、今後は早期に地元・県と連携し、当事者への依頼をこまめに行う必要がある。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について                      Aそのまま継続 ○                      B改善・見直し                      C廃止・終了</p> <p>①意見・提言</p>	<p>③新規就農事業は、果樹関係の若者に目を向け推進していく。</p> <p>④農の学校の受講生は、半農半Xの農ある暮らしスタイルで益子町に移住を考えている方が多い。農業プラスαとして益子町の魅力的なところも伝えていきたい。</p> <p>⑥小泉・本沼地区については、R5に補完工事、R6換地に向け県と連携し事業を進めていく。                      里西・星の宮地区については、R6事業採択に県・連合会・地元と協力して調整を行っていく。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	農政課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	成長産業としての農業の育成と「食」のまちづくり			
施策	農と食のまちづくりの推進	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	—			
KPI	「食の学校」(仮)で新たに開発された商品の数(累計)	本年度目標値	2	現状値	8	—
KPI		本年度目標値		現状値		
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な取組内容	4月			①ましこ食の学校打ち合わせ 4/13		
	5月	①飲食店との連携、ブランドとなる農産物の研究 ②「食の学校」の開催、町内産の農産物を使った新商品開発 ③町内農産物を使った6次産業化の支援		①③ケールスムージーの試作と試食 ②ましこ食の学校打ち合わせ5/24		
	6月			②ましこ食の学校打ち合わせ 6/17 ましこ食の学校開催通知発送(飲食店)お知らせ版掲載		
	7月			②③ましこ食の学校 第1回セミナー 7/20 参加者10名		
	8月	①飲食店との連携、ブランドとなる農産物の研究 ②「食の学校」の開催、町内産の農産物を使った新商品開発 ③町内農産物を使った6次産業化の支援		②③ましこ食の学校 第2回 個別相談 8/9 参加者3名		
	9月			②③ましこ食の学校 第3回個別相談 9/13 参加者5名		
	10月			②③ましこ食の学校 第4回個別相談 10/11 参加者5名		
	11月	①飲食店との連携、ブランドとなる農産物の研究 ②「食の学校」の開催、町内産の農産物を使った新商品開発 ③町内農産物を使った6次産業化の支援		①食の学校 農×食ワークショップ		
	12月			②③ましこ食の学校 衛生管理セミナー 12/6 参加者2名		
	1月			②③ましこ食の学校個別相談		
	2月	①飲食店との連携、ブランドとなる農産物の研究 ②「食の学校」の開催、町内産の農産物を使った新商品開発 ③町内農産物を使った6次産業化の支援		②③ましこ食の学校個別相談		
	3月			②③ましこ食の学校個別相談		

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①③道の駅まじこの「まじこのごはん」でケールスムージーの試作と試食を実施した。 ②まじこ食の学校では、飲食店や一般住民を対象に、農産物を活用した加工品開発に関するセミナーを実施する、概要のセミナー実施後、人数限定ではあるが指導者からマンツーマンで指導を受け商品開発を行う。昨年、まじこ食の学校で開発された新商品と開発者の飲食店をちらしに掲載し、全飲店に配布した。また今回は一般住民も対象にすることから、お知らせ版に掲載し、広く住民に周知した。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①道の駅まじこで「まじこ西洋野菜研究会」が生産したカーリーケールを使用したソフトクリームを開発した。栄養価が高さで知名度があるため、健康や美容の意識の高い消費者をターゲットに「健やか抹茶ソフト」と名付けて発売。くせがなく、食べやすい味で安定した売り上げ上げている。9月には同じくカーリーケールによるドレッシングも開発され、道の駅まじこで発売になった。カーリーケールは栽培しやすく、長期間供給が可能であり、スーパーフードとして着目されているため、引き続き益子のブランド野菜となるよう育てていきたい。 ②③食の学校のセミナー、個別相談を行った。余剰農作物の活用方法を考えている農家や、町内農産物の加工品販売により店舗のPRを考えている飲食店などから相談があった。管理栄養士や益子食品加工センターとの個別相談により多様な加工アイデアが生まれた。新商品開発に向けて支援を続けたい。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①まじこ西洋野菜研究会の生産者と町内飲食店が連携して、フレンチシェフを招いてワークショップを実施した。ピーツやバターナッツかぼちゃなどの下処理方法、付加価値の付け方について学び、有意義なワークショップとなった。 また「まじこ西洋野菜研究会」の野菜の試食を行い、町内飲食店へのPRや交流を図ることができた。今後は、生産者と飲食店が連携し、町全体で農産物のブランド化について具体的に検討していきたい。 ②③食の学校では、個別相談により新たな加工品開発が進んでいる。12月6日には、加工品を道の駅で売るための手順のセミナーが行われ、衛生管理と表示方法について管理栄養士から説明があった。作って終わり、ではなく販売中も責任を持つことの重要性について理解を深めることができた。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>まじこ食の学校では個別相談が行われ、今年度開発の10品目の加工品のうち2品目が既に商品化されており、その他の品目も商品化に向けて進めている状況。加工品開発により飲食店は店舗以外の販売チャネル(道の駅まじこ等)の多様化による顧客の確保が期待でき、農業者は余剰農産物のロス削減や農産物の高付加価値化の実現が可能となり、非常に有効な事業であった。次年度はこれらの商品と販売につなげる支援を行っていきたい。特にふるさと納税などのセット商品、コラボ商品などの出口戦略を考えた上で開発を進めていきたい。</p>



シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について                      Aそのまま継続                      B改善・見直し ○                      C廃止・終了</p> <p>①意見・提言                      KPIの「開発された商品数」とは、商品化された数のことではないのですか？数字を見ると昨年1つだったものが、今年7つ増えて累計8つとなっていますが、四半期検証シートの総括では2品目が商品化されたと書いてあります。いずれにしても、開発数ではなく、売物として商品化された数にした方がよいと思います。</p>	<p>KPIの「開発された商品数」につきましては、開発数でなく売り物として商品化された数でカウントしております。令和3年度に開発し年度内に商品化されたもの1品目、令和3年度に開発し令和4年度に商品化されたもの5品目、令和4年度に開発し年度内に商品化されたものが2品目の累計で8品目となっております。四半期検証シートの総括欄の記載が、誤解を生む文言でありましたことをお詫びします。町内産農産物を活用した新商品開発事業は、従来同様、食の学校をとおり、このまま継続するかたちで推進いたします。</p>



第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	農政課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる		政策	成長産業としての農業の育成と「食」のまちづくり		
施策	農産物の販路拡大		進捗状況	100%		
関連する優先目標	—		関連するSDGs	2 飢餓		
KPI	市町村別農業産出額		本年度目標値	36.0 (R3)	現状値	28.0 (R3) 億円
KPI			本年度目標値		現状値	
KPI			本年度目標値		現状値	
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果			
主な取組内容	4月		①千本松牧場との打ち合わせ 4/28 千本松牧場との取引 ②三越伊勢丹ふるさと納税 ②楽天、チョイスふるさと納税			
	5月	①関係機関と連携、他地域への販売体制の強化 ②販売経路の多様化の促進、JETRO等関係機関と連携し海外へ販路を拡大 ③農産物の地産地消の推進、町内循環型経済を目指す	①千本松牧場との取引 ②三越伊勢丹ふるさと納税 ②楽天、チョイスふるさと納税			
	6月		①千本松牧場との取引打ち合わせ(ピクルス) 6/30 ②三越伊勢丹ふるさと納税 ②楽天、チョイスふるさと納税			
	7月		①千本松牧場で益子ピクルス発販売			
	8月	①関係機関と連携、他地域への販売体制の強化 ②販売経路の多様化の促進、JETRO等関係機関と連携し海外へ販路を拡大 ③農産物の地産地消の推進、町内循環型経済を目指す	①東京アメリカンクラブへの販売開始			
	9月		①東京アメリカンクラブへの販売開始 ③小泉本沼集落営農組合でのさつまいも収穫体験			
	10月		①東京アメリカンクラブへの販売			
	11月	①関係機関と連携、他地域への販売体制の強化 ②販売経路の多様化の促進、JETRO等関係機関と連携し海外へ販路を拡大 ③農産物の地産地消の推進、町内循環型経済を目指す	①東京アメリカンクラブへの販売 ③町内飲食店とのベジマルシェ開催 ③給食で益子産さつまいもを使用			
	12月		①東京アメリカンクラブへの販売 ①東急ホテルへの販売 ③給食で益子産さつまいも、ケールを使用			
	1月		①東京アメリカンクラブへの販売			
	2月	①関係機関と連携、他地域への販売体制の強化 ②販売経路の多様化の促進、JETRO等関係機関と連携し海外へ販路を拡大 ③農産物の地産地消の推進、町内循環型経済を目指す	①東京アメリカンクラブへの販売			
	3月		①東京アメリカンクラブへの販売			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①三越伊勢丹、楽天、チョイスの農産物の売れ行きが好調である。今後も消費動向を見極めながらニーズがありかつ質の高い商品開発を行っていききたい。また那須の千本松牧場での農産物加工品の売り上げが好調であり、新たにピクルスや生鮮野菜の取引のオファーがあった。千本松牧場から生鮮野菜についてブランディングの構築を求められているため、早急に取り掛かる必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①千本松牧場で「ましこ西洋野菜研究会」の西洋野菜を使用した「ましこピクルス」を販売することになった。以前から「彩りのよいピクルスが販売したい」と相談を受けており、益子食品加工センターが3種類のピクルスを開発した。 売れ行きや、消費者の声を把握し、那須の観光客が求める商品に対応できるよう、随時アップデートして売り上げにつなげていきたい。千本松牧場では益子の野菜や果物、加工品への関心が高いため、今後もよい関係性を築いていきたい。</p> <p>①国際交流の拠点として伝統があり、複数のレストランを展開している都内の東京アメリカンクラブにサラダ商材を定期的に販売することになった。、「益子の農産物」をブランド化できるよう、農家や道の駅ましこのスタッフと協力し質が高く鮮度の良い農産物を販売していきたい。</p> <p>③農家、道の駅ましこ、農政課、給食センター、学校が連携し食育事業を開始した。1回目は田野小学校3.4年生が小泉本沼地区で芋ほり体験を実施し、収穫したさつまいもを給食で提供する。体験の際には、道の駅ましこのスタッフから さつまいもの話をすることにより、地元の農産物への理解を深め、地産地消につなげるねらいである。今後もさまざまな農産物で継続していきたい。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①東京アメリカンクラブでは、益子の野菜の品質を評価され、4万円分の「おまかせ野菜セット」を月2回、ベビーリーフ5キロを週2回発送している。しかし、送料がネックとなり、継続が困難な状況である。今後は高速バスの貨客混載なども活用しながら新たな販路の開拓に取り組んでいきたい。また販路開拓にあたっては、生産者と実需者をつなぎ、商品価値を相手先に伝える役割を果たす人材の確保が求められる。</p> <p>③学校給食では、県の補助金を活用し、益子産のさつまいもやケールを使用した給食を提供することができた。継続して給食の地産地消を進めていきたい。ベジマルシェでは、飲食店が町内産の野菜を使用したメニューを提供し、生産者が野菜を販売するマルシェを開催した。益子の農と食を町内外にPRし、町内循環型経済を推進していきたい。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①東京アメリカンクラブへは、送料の関係で「おまかせ野菜セット」は年内で中止となり、ベビーリーフのみ週2回の発送を行っている。益子の野菜の品質の高さが認められている一方で、送料が取引のネックになっているという事実を検証し、次年度の販路開拓への支援に取り組んでいきたい。また次年度はふるさと納税を強化するため、企画課や道の駅ましこ、農業者と連携し販売体制の強化に取り組みたい。</p> <p>②いちごの輸出については、暫く中断していたが3月末から一部再開された。道の駅ましこを中心に再開や拡大に向け検討を行っている。</p> <p>③農産物の地産地消については、次年度は給食や、親子を対象に食農教育に積極的にとり組み、地産地消を推進していきたい。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について                      Aこのまま継続 ○                      B改善・見直し                      C廃止・終了</p> <p>①意見・提言                      ②の販売経路の多様化の促進、JETRO等関係機関と連携し海外への販路拡大への取り組みが弱いと思いますので、積極的展開を期待します。</p>	<p>②米の輸出について検討していく。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる		政策	観光の基幹産業化		
施策	観光基盤の整備		進捗状況	100%		
関連する優先目標	—		関連するSDGs	—		
KPI	観光客入込数	本年度目標値	225	現状値	248 (R4)	万人
KPI	観光客宿泊者数	本年度目標値	35,000	現状値	39,143 (R4)	人
KPI		本年度目標値		現状値		
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果			
主な取組内容	4月		①-1 「near by tokyo」サイトでの英語圏への益子町の情報発信 ①-2 宿泊98人 ギャラリー8人			
	5月	①-1インバウンド誘客事業 ①-2ましこ悠和館宿泊、ギャラリー運営事業 ①-3益子まるごとクーポン事業	①-1 「near by tokyo」サイトでの英語圏への益子町の情報発信 ①-1 5/13 深澤事業オンラインMTG。今後の事業実施について打ち合わせを行った。 ①- 2宿泊142人 ギャラリー6人 ①-3まるごとクーポン実行委員会開催。クーポンの金額や事業内容について決定する。			
	6月	②サイクルツアー造成事業(DMO) ③多言語化パンフレット等の作成	①-1 事業者と事業内容について打ち合わせを行った。 ①-1 6/2 深澤事業オンラインMTG。事業を見直すこととなった。 ①-2 宿泊56人、ギャラリー23人 ①-2 ギャラリーの企画展示について事業者と今年度事業内容等について打ち合わせを行った。 ①-3まるごとクーポン事業実施に向けて、クーポン券、小冊子等の準備に係る打ち合わせを実施。 ③ 事業者と予算等について打ち合わせを行った。			
	7月	①-1インバウンド誘客事業 ①-2ましこ悠和館宿泊、ギャラリー運営事業	①-1 観光庁事業『周遊観光促進のための専門家派遣事業』についての説明会への参加 ①-2 宿泊92人、ギャラリー9人 ①-2 ギャラリーの企画展示について事業者と今年度事業内容等について打ち合わせを行った。 ①-3 まるごとクーポン宿泊分(じゃらん)ペア券7/22完売。単独券7/30完売。			
	8月	①-3益子まるごとクーポン事業 ②サイクルツアー造成事業(DMO)	①-2 宿泊154人、ギャラリー10人 ①-2 ギャラリーの企画展示について事業者と今年度事業内容等について打ち合わせを行った。			
	9月	③多言語化パンフレット等の作成	①-1 事業者と事業内容について打ち合わせを行った。次期に契約締結予定。観光庁事業『周遊観光促進のための専門家派遣事業』の専門家派遣を依頼。 ①-2 火災報知器修繕工事実施。宿泊118人、ギャラリー15人 ①-2 ギャラリーの企画展示について下野新聞社と業務委託契約締結。 ①-3 まるごとクーポン日帰り分 9/9完売 ③ 事業者と予算等について打ち合わせを行った。			
	10月	①-1インバウンド誘客事業 ①-2ましこ悠和館宿泊、ギャラリー運営事業	①-1、③ 事業者と事業内容についての打ち合わせを行い、ジャパン・ワールド・リンク(株)と業務委託契約を締結した。 ①-2 宿泊93人、ギャラリー11人 ①-3 15,000部制作した「益子まるごとブック」については6,450部を配布済。クーポン利用者アンケートは約200枚回収。			
	11月	①-3益子まるごとクーポン事業 ②サイクルツアー造成事業(DMO)	①-1、③ 11/21 町内のレンタサイクル事業者へインバウンド受入体制についてヒアリングを実施した。 ①-1 11/28 観光庁事業『周遊観光促進のための専門家派遣事業』の専門家とともに町内事業者を訪問しインバウンド受入体制の課題についてヒアリングを行った。 ①-2 宿泊114人、ギャラリー14人 ②11/20 益子世間遺産サイクルロゲイニングを実施(参加者25名)。			
	12月	③多言語化パンフレット等の作成	①-1 観光庁事業『周遊観光促進のための専門家派遣事業』の専門家派遣を依頼。1月中に実施予定。 ①-2 宿泊47人、ギャラリー18人 ①-2 平和を考える絵本展設置			
	1月	①-1 インバウンド誘客事業 ①-2 ましこ悠和館宿泊、ギャラリー運営事業	①-1 観光庁事業『周遊観光促進のための専門家派遣事業』の専門家派遣実施。(1/19)。 ①-1、③ レンタサイクルのインバウンド向けWEBページ・チラシの原稿校正・作成準備 ①- 2宿泊73人 ギャラリー8人			
	2月	①-3 益子まるごとクーポン事業 ② サイクルツーリズム事業、ツアー造成事業(DMO)	①-1、③ レンタサイクルのインバウンド向けWEBページ・チラシの原稿校正・作成準備 ①- 2宿泊53人 ギャラリー10人			
	3月	③ 多言語化パンフレット等の作成	①-1、③ レンタサイクルのインバウンド向けWEBページ・チラシの作成 ①- 2宿泊80人 ギャラリー15人、ギャラリー平和を考える絵本展への絵本寄贈受け入れ ①-3まるごとクーポン実行委員会開催。R4の事業実績について内容を事務局メンバーで共有した。			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第 1 四 半 期</p>	<p>①-1 「near by tokyo」サイト上で昨年度制作した外国人観光客向け陶芸体験動画の情報発信を行っている。今年度充実させる項目について事業者と第1回目の打ち合わせを行い、次期以降、詳細な打合せが必要。</p> <p>①-2 ましこ悠和館の平和のギャラリーの企画展示について、「平和を考える絵本展」を実施することとなった。次期以降内容について打ち合わせを行う。</p> <p>①-3 県民一家族一旅行の再開や陶器市実施の影響もあり、宿泊数が増加している。次期以降は昨年度も実施した「益子まるごとクーポン」事業を行うなど、宿泊数を増加させる施策を実施していく。</p> <p>③ 必要に応じて多言語化パンフレット等の作成を検討していく。</p>
<p style="text-align: center;">第 2 四 半 期</p>	<p>①-1 「near by tokyo」サイト上で外国人観光客向けの情報発信を行っている。今年度充実させる項目について事業者と詳細な打ち合わせを行った。また、観光庁の事業である『周遊観光促進のための専門家派遣事業』を利用し専門家派遣を依頼。次期に来年度以降のインバウンド誘客事業について専門家の意見を聴取する。</p> <p>①-2 ましこ悠和館の平和のギャラリーの企画展示について、「平和を考える絵本展」の実施を下野新聞社に依頼することとなり、次期以降、具体的に事業を進めていく。</p> <p>①-3 まるごとクーポン事業については、宿泊・日帰りクーポンとも売上好調であり、宿泊者数・観光客数増加に繋がっていると考える。</p> <p>③ 次期に多言語化パンフレット等の作成を進める。</p>
<p style="text-align: center;">第 3 四 半 期</p>	<p>①-1、③ 「near by tokyo」サイト上で外国人観光客向けの情報発信を行っている。事業者と契約を締結し、レンタサイクルのインバウンド受入体制の強化に取り組んでいる。次期にWEBページやチラシの完成を目指す。また、観光庁の事業である『周遊観光促進のための専門家派遣事業』を利用しインバウンド受入体制の課題について専門家とともに町内事業者のヒアリングを行った。ヒアリング結果をもとに、今後のインバウンド受け入れ体制の強化に繋げたい。</p> <p>①-2 ましこ悠和館の平和のギャラリーの企画展示について、「平和を考える絵本展」を開設。常設の展示としてPRを行っていく。</p> <p>② 世間遺産を利用したサイクルイベント(益子世間遺産サイクルロゲイニング)を実施。今後もレンタサイクルの活用を進めていく。</p> <p>①-3 益子まるごとクーポン事業については、制作した「まるごとブック」は観光客が入手したい各店舗の情報等が掲載されており、好評である。手にした方が「再び訪れたい観光地」として、心に止めていただくことで、新たなリピーターの獲得にも繋がると考えている。クーポン事業についても、引き続き、各宿泊施設等とも連携し、売上向上に努めたい。</p>
<p style="text-align: center;">総 括 ( 第 4 四 半 期 含 )</p>	<p>①-1、③ 「near by tokyo」サイト上で外国人観光客向けの情報発信を行っている。レンタサイクルのインバウンド受入体制の強化のため、WEBページやチラシを作成した。チラシについては、町内のレンタサイクル業者に配布し、積極的に活用くださるよう促した。</p> <p>また、観光庁の事業である『周遊観光促進のための専門家派遣事業』を利用しインバウンド受入体制の課題について専門家のアドバイス等を参考に、今後のインバウンド受け入れ体制の強化に繋げたい。</p> <p>①-2 ましこ悠和館の平和のギャラリーの企画展示「平和を考える絵本展」を開設した。今後も常設の展示としてPRを行っていく。</p> <p>①-3 益子まるごとクーポン事業については、観光客にも事業者にも概ね好評であった。クーポンの購入者の居住地等、課題もあるが、来年度以降も事業を継続することで各観光事業者の売上向上に繋げたい。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について                      Aこのまま継続                      B改善・見直し ○                      C廃止・終了</p> <p>①意見・提言                      ①-2のましこ悠和館の運営について、改善・見直しをした方が良い。(株)益子カンパニーの範疇だと思いますが、サービスやオペレーションをできるだけ簡素化した方がよいと思う。</p>	<p>コロナが5類に移行したことに伴い観光客が増加傾向にあるため、情報発信や受入態勢整備を進めていく。ましこ悠和館の運営については、(株)ましこカンパニーと協議しながら効率的かつ効果的な運営ができるよう進めていく。</p>



第3期ましこ未来計画推進シート

R4(2022)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	観光の基幹産業化			
施策	DMOを核とした観光地域づくり	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	—			
KPI	町外のmashipoカード会員数(町外の顧客)	本年度目標値	9,800	現状値	9,692	人
KPI	ツアー参加者数(累計)	本年度目標値	600	現状値	45	人
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な 取組 内容	4月	①-1観光振興事業 ①-2ツアー造成事業(DMO)	①-1 4/23.24 ソラマチとちまるショップにて春の陶器市の周知イベント開催。 ①-2 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」について、ましこラボが事業主体となり、申請する準備として、関係者打ち合わせを実施(4/4、4/11、4/14) ②-1 4/29～5/8 陶器市を開催。期間中來場者数約377,000人。 ②-2 4/18 ラーニングパッケージ「合鴨と育てるお米づくりを知り、食す会」申請受付。5.6.9.12月実施予定。			
	5月	②-1陶器市支援事業 ②-2ラーニングパッケージ事業 ⑤雨巻山登山整備事業	①-2 5/22 高館山にて、ましこびと主催のリレーマラソン開催。ラボスタッフがコース誘導係としてサポート参加。観光庁事業5/24採択内示通知、5/26関係者打ち合わせ、5/31事業計画書・交付申請書の提出 ②-1 4/29～5/8 陶器市を開催。期間中來場者数約377,000人。 ②-2 5/26「受け継ごう益子の手仕事2022」申請受付。7.9.11.1月実施予定。 ⑤ 雨巻山にオフロードバイクの乗り入れの情報提供あり。雨巻山登山道の管理を行っているいべ会や所有者である日光森林管理署等へ情報を共有。			
	6月		①-2 6/9交付決定、6/20キックオフミーティング。 ②-2 6/14過去のラーニングパッケージ実施事業者へラーニングパッケージ事業交付金の周知文書発送。 ⑤ 雨巻山にて滑落事故発生。いべ会や所有者である日光森林管理署等へ情報を共有。			
	7月	①観光振興事業(DMO)	②-2 7/24ラーニングパッケージ「受け継ごう益子の手仕事」開催。参加者6人。 ②-3 7/1神前会議出席。7/22.23.24 祇園祭開催(新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小)。 ⑤ 7/3雨巻山にて転倒事故発生。いべ会や所有者である日光森林管理署等へ情報を共有。			
	8月	①ツアー造成事業(DMO) ②ラーニングパッケージ事業	③ 日本遺産活用事業である「かさましこ日本遺産活性化協議会事業」のラーニングパッケージ、ファムツアー、有料ガイドコーディネーター講習会について、JTBとの打合せに同席。 ⑤ 8/22雨巻山山岳救助情報共有会議開催。いべ会、日光森林管理署、警察関係者19名参加。			
	9月	⑤雨巻山登山整備事業	①-1 9/24.25米沢市なせばなる秋まつりにて観光PRを実施。 ①-2 9/13・9/27世間遺産ロゲイニング(仮)に関する打ち合わせを実施。 ②-2 9/29ラーニングパッケージ「合鴨と育てるお米づくりを知り、食す会」実施。参加者10人。 ③ 9/28 日本遺産活用事業である「かさましこ日本遺産活性化協議会事業」の文化振興ワーキンググループ会議、観光振興ワーキンググループ会議に出席。 ⑤ 9/9雨巻山にて転倒事故発生。いべ会や所有者である日光森林管理署等へ情報を共有。			
	10月	①-1観光振興事業 ①-2ツアー造成事業(DMO)	①-1 10/22ソラマチとちまるショップにて秋の陶器市の周知イベント開催。 ①-1 10/8～10 佐野アウトレットにて秋の小さな陶器市開催。陶器市PRを実施。 ①-2 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」について打ち合わせを実施(10/14、10/19、10/24、10/31)			
	11月	②-1陶器市支援事業 ②-2ラーニングパッケージ事業	①-2 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」について打ち合わせを実施(11/8、11/10、11/11、11/16、11/18、11/22、11/30) ①-2 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」で東京の阪急交通社ビル内で観光セミナー『旅こと塾』を実施。益子町のPRと今回の事業のPRを実施(参加者22名)。 ②-1 11/3～11/7 陶器市を開催。期間中來場者約168,000人。 ②-2 11/27ラーニングパッケージ「受け継ごう益子の手仕事」開催。参加者4名。			
	12月	③ かさましこ観光協議会事業(生涯学習課) ⑤雨巻山登山整備事業	①-2 12/14観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」で開発した地産地消メニューの試食会を千駄ヶ谷で実施(参加者50名)。 ②-2 12/3ラーニングパッケージ「合鴨と育てるお米づくりを知り、食す会」開催。参加者8名。 ③ 12/23 日本遺産活用事業である「かさましこ日本遺産活性化協議会事業」の文化振興ワーキンググループ会議に出席。 ⑤ 12/3第7回トラン益子開催。参加者170名。			
	1月	①-1 観光振興事業 ①-2 ツアー造成事業(DMO)	①-1 1/14 ソラマチにて「いちご王国・栃木の日」観光PRイベントにて観光PRを実施。 ①-2 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」事務局打ち合わせ(1/11、24)インバウンドセミナー実施(1/18) ② 1/22ラーニングパッケージ「受け継ごう益子の手仕事」開催。参加者7名。 ③1/12 日本遺産活用事業である「かさましこ日本遺産活性化協議会事業」の全体会に出席。			
	2月	② ラーニングパッケージ事業 ③ かさましこ観光協議会事業(生涯学習課)	①-1JR上野産直市(2/17)への参加 ①-2 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」モニターツアー(2/7～2/8)20名参加、事務局打ち合わせ(2/15)			
	3月	④ グリーンツーリズム推進 ⑤ 雨巻山登山整備事業	①-1川崎市高津区「春のふるさと館まつり」イベント参加(3/5) ⑤ 親水公園登山口への誘導のため、大川戸駐車場に誘導看板設置を行った。			



シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①-1 とちまるショップにて陶器市周知イベントを開催した。栃木県に興味がある人に積極的に声をかけることができたが、チラシはあまり捌けなかったため、チラシの配り方に工夫が必要。</p> <p>①-2観光庁事業については、第2四半期以降、本格的に事業が始動する予定であり、関係機関(商工会・観光協会等)と連携を深め、円滑な事業遂行を目指す。</p> <p>②-1 新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期していた陶器市が3年ぶりに開催された。秋の陶器市等、イベント開催時のコロナ対策については、今後の感染の状況を注視しつつ必要な対策を行っていく必要がある。</p> <p>②-2 ラーニングバケーション事業については、コロナの状況を注視しながら、次期以降も募集を継続していく。</p> <p>⑤ 雨巻山登山については関係団体と連携し、引き続き登山道の整備等を行っていく。12月に「トレラン」の開催も決定しており、今後も登山以外の雨巻山の活用を進めていく。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①-1 米沢市なせばなる秋まつりにて観光PRを実施した。道の駅ましこの商品も販売し益子町のPRをすることができた。</p> <p>①-2ツアー造成事業については、生涯学習課とも連携し、世間遺産を絡めたロゲイニングを企画し、町の魅力を発掘し、観光誘客に繋げたい。</p> <p>②-2 ラーニングバケーション事業については、コロナの状況を注視しながら、次期以降も募集を継続していく。</p> <p>②-3 新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となっていた祇園祭が開催された。来年度の開催にあたっては今後の感染の状況を注視しつつ必要な対策を行っていく必要がある。</p> <p>③ かさましこ日本遺産活性化協議会事業については、今年度実施事業についての関係者間の情報共有を行った。今後も関係者間と連携を深め事業を進めていく。</p> <p>⑤ 雨巻山登山については事故が多発していることを鑑み、山岳救助の情報共有会議を開催し、関係団体との情報共有を行った。今後も登山者に安全に楽しんでいただけるよう関係団体と連携し整備等を行っていく。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①-1 とちまるショップ、佐野アウトレットにて秋の陶器市PRをメインに観光PRを行った。陶器市については多くの方に認知いただいております、陶器市に行く予定があるという方も多く、併せてカフェや宿泊施設、美術館などのPRを行うことができた。今後も各種イベント等において、積極的に観光PRを行っていきたい。</p> <p>①-2 観光庁事業については、看板商品のPRや試食会を実施した。年度末に向けて、関係機関(商工会・観光協会等)と連携を深め、円滑な事業遂行を目指す。</p> <p>②-1 秋の陶器市が開催された。初日は約51,000人が来場し、駐車場のトラブルが発生した。次回は今回の反省を活かし、必要な対応を行っていく。</p> <p>③ かさましこ日本遺産活性化協議会事業については、引き続きの関係者間の情報共有を行いながら連携を深め事業を進めていく。</p> <p>⑤ 雨巻山を中心に7回目となるトレラン益子が開催された。大きな事故等なく無事に終了した。今後も登山以外の雨巻山の活用を進めていく。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①-1 スカイツリー、上野駅産直市にて観光PRを行った。今後も各種イベント等において、積極的に観光PRを行っていく。</p> <p>①-2 観光庁事業については、関係機関(商工会・観光協会等)と連携を深め、来年度以降も事業の継続を目指す。</p> <p>②ラーニングバケーションのすべてのプログラムが終了した。今年度ラーニングバケーションの実施が2団体であったため、今後実施団体の新規開拓が課題である。</p> <p>③ かさましこ日本遺産活性化協議会事業については、引き続きの関係者間の情報共有を行いながら連携を深め事業を進めていく。</p> <p>⑤ 雨巻山登山については関係団体と連携し、来年度以降も引き続き登山道の整備等を行っていく。また、各種イベント等の開催等も含めて、登山以外の雨巻山の活用も検討していく。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について                      Aそのまま継続                      B改善・見直し ○                      C廃止・終了</p> <p>①意見・提言                      ①-2の着地型のツアー造成についてですが、メインターゲットを外国人(欧米・濠)にした方が良いと思う。英語で案内できるスタッフを雇用し、外国人の興味に沿ったコース内容にする。理由としては、単価を上げやすく、採算がとりやすくなる。参考とする商品をして、飛騨古川の里山エクスペリエンスのツアーがある。</p>	<p>引き続き関係団体と連携しながら観光資源を活かして観光誘客に繋がる事業を行っていく。ツアー造成については他地域を参考にしつつ、ツアーターゲットや内容について関係団体の意見を聞きながら、外国人をメインターゲットに設定する案についても検討し、今後の事業を進めていきたい。</p>